

* 子ども防災博士意見発表の部 *

最優秀賞 「地域のつながりで守る命」

中央小学校 六年 菱田 彩月さん



災害が起きたとき、まず大切なことは避難です。

避難とは、災難から特定の施設や安全な場所へと逃れることです。では皆さん、想像してみてください。あなたが住んでいる地域で、地震や大雨などの大きな災害が起き、避難指示が出たとします。もちろん、あなたは指示通りに、最寄りの避難施設へと向かうでしょう。しばらくの間、避難所で生活していると、あなたは何を感じるでしょうか。

私が小学校五年生のときのことです。保健室前を通りかかると、ふと掲示物に貼り出されていた「災害が起こったときクイズ」に目が留まりました。そのクイズは、「災害時に持っていくと良いものは、栄養のことを考えた長持ちする食べ物か、それとも、自分が好きなお菓子のどちらか」というものでした。私は間違いなく、災害時に持っていくと良いものは「栄養のことを考えた長持ちする食べ物」だと思いました。

それから数日ほどすると、そのクイズの答えが貼り出されていました。クイズの答えを見た私は、とても驚きました。クイズの答えは、「自分の好きなお菓子」だったのです。どうしてなのか気になった私は、理由を調べてみることにしました。すると、「災害時はあせってしまい、冷静な判断ができないため自分の好きなものや食べ物で心を落ち着かせる必要がある」ということが分かりました。

災害が起こったとき、避難所にはたくさんの方が居て、そのほとんどが知らない人達です。だから、周りに知らない人がたくさんいる環境で生活していくことは、大きな心の負担となってしまうことがあるのです。実際に避難所での環境の負担が原因で、病気にかかったり、そのまま命を落としてしまったりしたというニュースを見たことがあります。つまり、やっとの思いで避難所へ逃れることができたとしても、避難所で命を落としてしまう可能性があるということです。そのようなことを防ぐためには、避難所での不安を少しでも和らげる必要があるのです。

不安に感じる原因には、あせってしまったり、そのような思いを周りの人と共有できなかつたりすることがあげられます。では、避難所での不安を減らすために、私たちには何ができるのでしょうか。

私の住んでいる地域では、道を歩いていると、近所の人、「おはよう」「いってらっしゃい」など声をかけてくれます。私も近所の人の名前を覚えているほど仲が良いです。だから、もし災害が起きたとしても、私は安心して避難所で過ごすことができます。このように、災害が起こる前から、同じ地域に住んでいる人達とより良い関係を築いておくことが、何より大切なのではないのでしょうか。まずは挨拶から始め、顔見知りになる程度の交流でも、災害が起こったときには大きな心の支えとなるはずです。皆と助け合い、励まし合いながら避難所で過ごしていくために、皆さんにも地域のつながりを大切にしていってほしいと思います。そして、災害が起きたとしても、少しでも多くの人々の命が助かってほしいと私は願っています。